

愛と死を語っていけば……

思いを語っていけば、愛と死の真実の向こうにあるものは、大きな愛のエネルギー、力強い波動、喜びのエネルギーに直結していくことを感じます。

そのエネルギーは、学びを進めていつている人達は、天変地異という形で示されていくことは、ご承知です。

そうです、愛と死を語っていけば、天変地異に繋がっていきます。私達と天変地異は切り離せないものだという思いが、私の中にしつかりとあります。

愛と死を語っていけば……

そして、その天変地異のエネルギーの源には宇宙があるのです。

私は、ずっと以前より、宇宙ということに自分の思いが向いていました。

自分の心を見る、そして、瞑想していく中で、自分と宇宙とかUFOとか、天変地異とかは切り離せないものだという感覚があります。

私は、自分は特別だとかそういう思いはありませんが、どういうわけか、宇宙を感じていきたい、宇宙を感じていくことが自分を感じていくことだという思いを強く持っています。

まだまだ、周りを見渡せば、時期尚早だということも分かっ

ますが、私自身は自分の中の宇宙と、もっと深く対話していこうという思いがあります。

そのために、今世の私の時間を整えてきました。

そして、肉という形を持てば、その形の自分にとらわれていくことは必至です。

しかし、肉という形を持たなければ、真実の自分をしっかりと心で知ることができないのです。

それを知った上で、今、こうして肉を持ち、自分の周りを整えてきたことを感じるからこそ、私達は流れの中にある、流れそのものが私達でしたという思いを強くしています。

肉という形にとらわれ、いかに他力のエネルギーのほうに心が引

っ張られようとも、真実に目覚めていくという、私の中の思いは、根強く、根深く息づいていたことに、心から感謝します。

生まれることと死んでいくことの転生の中で、自分の本質と出会っていく計画を、繰り返し立ててきたことを確認しています。

何で生まれてくるのか、何で死んでいくのか、何でこうなるのか、全部、自分の計画の中の出来事でした。

自分はみんな知っていたのです。

本当の私は、懲りることなく、「あなたは私としか生きていけない」と、何度も何度も伝えてくれました。

自分を信じてくれていた存在、自分を愛してくれていた存在、それがあった、これは、決して消えることのない事実でした。

私は、その自分とともに生きていくことを、今世の時間に誓ったのです。

本当の自分とともに生きることが、私の真実だったことを知ったからです。

私達は、生まれてきた時点から、何もなしでは生きていけません。着るもの、食するもの、住むところ、最低限度、それらを要します。

その上に、まだまだたくさんものを求めていきます。

生まれてきたからには、幸せになりたいと思います。

実り多き人生、幸せな人生、誰しもが望む思いです。

どうなればそうなるのかということ、人それぞれの思いや考え方があって、根本は、みんな幸せになりたいということだと思います。

しかし、幸せとはどういうことだろうかと考えたときに、私は、やはり人間というものは、幸せの本当の意味を知らないで生きてしまったということ、行き着くのです。

幸せも喜びも、みんな自分の外にあるものだと思つて、懸命に求めてきたのです。

それは、自分が幸せを感じ、喜びを感じるときは、どんなときなのかと、自分に聞いてみれば、答えは自ずと出てくると思います。

大抵は、幸せを感じ、喜びを感じる何かが必要になつてくるので

す。

これがあるから、あれがあるから、ということだと思えます。

しかし、こういう人もいます。

「何もなくても幸せ、喜びです」

果たして、どうでしょうか。

「生かされている喜びを感じて、感謝の思いが出てきます」という人がいたならば、私は、その人に聞いてみたいのです。

「あなたは、自分を知っていますか」

「あなたは、何によって生かされていると思っていますか」

きつと満足する答えは、返ってはこないでしょう。

「神に感謝」、「神のご加護を」、「仏の慈悲」、そのような言葉を出す人にも聞いてみたいのです。

「神や仏とは、いったい何を指して言うのですか」
これも同じでしょう。

誰にも答えることはできないと思います。

真実に出会った人などいないからです。

神や仏や宇宙のパワーは、自分達とは別世界のものであり、その世界は、自分達のずっと上にある世界だとしてきた人間にとって、真実の世界を自分の中で知っていくことは、生易しいものではありません。

無病息災、平穩無事を希^{こいねが}う思いが、いかに無知で欲であるのか、愚かなことであるのか、人間はどうしたら気付いていくことができるのでしょうか。

ご先祖様が見守ってくれる、天国から見守ってくれている、このような思いが、全く間違っている、バカげているということに、どうしたら気付けるのでしょうか。

救いを求めても、祈り続けても、どうにもならない状況に我が身を置く以外に方法はないのでしょうか。

私は、そう思っています。

それ以外に方法はないと思っています。

人間は、本当の意味で、裸にならなければならないのです。

もちろん、着ること、食すること、寝る場所の最低限度はあっても、「自分の心ひとつで、自分と向き合う」時を迎えなければならぬのです。

祈って祭って、献金して、それで幸せになれると思ってきたこと、幸せにしてくれと要求してきたこと、みんな間違いでしたとなつてこなければなりません。

そうなつてくるまで、容赦なく気付きの促しが訪れてきます。

本物の愛のエネルギーは、優しいがゆえに厳しいのです。

容赦はありません。

1 + 1 = 2 であつて、1 + 1 ≠ 3 だ、絶対に3にはなり得ないことを伝えてきます。

ⅡとⅢは、はっきりと違うことを伝えてきます。

人間は、自分達の世界の中では、ⅡとⅢは、はっきりと違うことを知っていても、ⅡとⅢは同じになるようにしろと要求したり、そうなるように仕向けていたりしていくのです。

それが、形の世界の現実であり、常識なのでしょう。

しかし、真実、波動の世界は、その現実も常識も一切通じない世界です。

そして、その世界に、本来私達は存在しています。

本来の私達と、そうでない私達とのギャップがあり過ぎて、今まで、真実は遠く彼方にありました。

それを、今、私達の目の前に引き寄せてくれて、どうぞ、この真

実の世界を知っていつてくださいと伝えてくれているのです。

今は、そういう時です。

学びを知った人は、今がどういう時であるのか、これからどのような時を迎えていくのか、薄々でも感じておられるのではないでしょう。か。

まだまだうすらぼんやりと感じていることも、やがて、それは、もう少ししつかりと感じてくると思います。

様々な出来事、色々な人達から、自分の心に伝わってくると思います。

だから、今は、ただ淡々として瞑想をする時間を重ねていけばいいのです。